

マルメ大学研修を終えて

柴田歯科医院 奥山 裕子

今回はこのような素晴らしい研修に参加させていただき本当にありがとうございました。今回の研修で得たことは全てが価値あるものでした。スウェーデンの歯科医療を直接学ぶことができるという大変貴重な機会を与えていただき、とても興奮したのと同時に得たものをしっかりと自分のものにしようという強い気持ちを持って参加させていただきました。初日ではダン先生より、“to confirm knowledge” “to add knowledge” “to get new perspectives”という今回のコースの目標を明確にし研修がスタートしました。現在持っている知識、新たに得ようとしているもの、考え方や見方は誰しも同じとは限りません。人によって捉え方は違うと思います。人と比べずに自分がどこまで成長できるかを常に挑戦しました。

その中でスウェーデンではエビデンスデータに基づいた内容が改めて豊富だと感じました。医療従事者が患者の健康利益にいかに関心を持っているか自分の目で見て、耳で聞いて直接肌で感じ心で学ぶことができました。これまでの診療でいかに自分が患者に健康利益を提供できていたのか考えさせられるところもありました。

また日本の歯科医療の中で歯科医師と歯科衛生士ははたしてヒーローなのか？と問われる面もありました。まだまだ自分の利益のために歯を削っている歯科医師は多くいるということ、また現地のデンタルナースと類似した仕事内容を日本の歯科衛生士がまだ行っているところも多くあるということ。患者の口腔健康に目をそらし、目の前にある修復治療だけを行ってきた日本の歯科医療の中で歯科衛生士としての真の役割が失っていたように思います。生涯にわたってその患者の口腔の健康を支えることができる、その患者の将来をも変えることができる。そんな素晴らしい歯科衛生士としての専門職がもっと広がるように日本でもしていかなければいけないと思いました。

今回のことで日本の歯科医療の現状について多くのことを考えさせられ、また問われた気がします。日本が今、目の前にある問題にどう関わり、気づき、立ち向かっていくのか試されているように感じました。他の歯科医院の歯科医師や歯科衛生士たちともお話しする機会があり、そういった面もディスカッションすることができ大変良い場となりました。今回の研修で得たことは決して一言で言い表せられることはできません。貴重な研修に参加させていただいたというだけで満足することせず、学んだことを患者に提供し更なる口腔健康増進の維持に生かせるようにこれを原動力にまた努力していきたいと思いました。マルメ研修に携われた多くの方々大変お世話になり、誠に感謝いたします。